

## 長崎研修報告書

大学1年生の春休みという時間があるときに実際に現場に行き、その現場の人たちの話を聞き、自分たちの目で見てみたいと思い国内研修に応募した。

長崎を選んだ理由は、児童福祉に興味があったのでいろいろ調べていたら、2014年に起きた佐世保事件という日本中に大きく報道された事件があった。自分もその時高校生ですごく印象に残っていた事件だったので調べていたら長崎県佐世保市の「佐世保こども女性障害者支援センター」という行政がその事件に関与し対応していたということを知り、このセンターを見学したいと思った。

また、福祉のことだけでなく地域、町づくり、またその地域に密着している、中小企業もことも学びたいと思い、図司先生の授業で地域おこし協力隊という方々が町おこしのために活動していることを知っていて、長崎県にも長崎県佐世保地域の、「地域おこし協力隊」があったので地域おこし協力隊の方々と地域に密着している中小企業を応援する団体「長崎県中小企業団体中央会」でも話を伺いたいと思いこの三つの団体に決めた。

まず、「佐世保こども女性障害者支援センター」はこども、女性、障害者の相談に応じる場所で特に子どもに関する相談が多くなっている。児童相談所としての役割もあり、相談に乗るだけではなく、こどもを一時保護するという業務もある。

子どもに焦点を当てて話を聞いたところ今まで知らなかったこと、児童相談所の実態、佐世保事件について聞くことができた。

相談件数が増えている中、問題も深刻化していて、簡単に解決することができず、長期的な援助が必要となっている。中でも一番印象に残っているのが、実際の相談内容について、子どもが抱える問題は虐待、不登校、非行、発達障害などだが、やはり虐待に関する問題が多く、身体的、精神的、性的虐待などある。私たちがセンターの方から話を聞いたのは、事情があって祖父と暮らしていてその祖父から性的虐待を受けていた女の子の話だった。中学生の女の子でなかなか周りに助けを求めることができず、1人で長い間我慢していたが、やっと大人に相談することができ、今はセンターの人が精神的な面でも支えている。この話を聞いて、本やニュースで見て問題を知るよりも実際に問題にかかわっている人の話だと声のトーンなどから本当に問題深刻で傷ついている子どもがいるということを強く感じた。

センターの方から話を聞くことができて問題意識が上がった。

次に伺った佐世保地域おこし協力隊の方は佐世保市役所地域政策課の田中さんと協力隊で「黒島」という島で活動している三原さんから話を聞くことができた。

黒島という島は、高齢化率が70%以上で若者の流出が激しい島であり、その中で地域を活性化させるために活動しているのが三原さん。主な活動内容は、まず島を知ってもらうための活動で、大学生と連携して、交通費のみ負担してもらって、とりあえず島に来てもらい、島での宿泊や食事は島の住民の方におもてなししてもらうことで島のおいしい食事やきれいな自然、島の人の温かさを知ってもらい、大学生もおもてなししてもらう代わりに島の人たちとの交流や活動も一緒に行い、島を好きになってもらうという活動をしている。現在は長崎県内の大学、短大と活動しているが長崎県以外の大学生との交流を求めている。

地域おこし協力隊は成功している例も多いが、失敗例もあり苦労していることも多い。一番は三年後の定住という問題で、短期的な効果や活動（学生のインターン 地域復興ボランティア）は見込めるが長期的に考えて、その地域の定住が見込めないということが苦労している点である。市役所の田中さんも長崎県外の大学生との交流、活動を求めているので、機会があれば黒島に足を運んでみたい。

最後に伺ったのは、長崎県の中小企業を応援する団体で「長崎県中小企業団体中央会」の野村さんに話を伺った。

この団体は、全国、各都道府県に存在するもので中小企業の組織化、連携による共同事業を推進することで中小企業の振興発展を図っていくことを目的として活動している。人件費などの費用は行政からの補助金でまかなわれていて、中小企業の設立相談から始まり、設立登記、組合事業の開始までをサポート。長崎県の中央会は現在年に二、三件の事業を受け持っている。

まず中小企業が中央会を通じて組合を作るメリットとは行政とのつながりが強くなり情報力up、コストダウンや生産効率の向上、新たな販路や市場の開拓が可能になるなど様々なメリットが存在する。

その組合のメリットを実現させるために、中央会が組合の強化、育成、調査、情報発信、養成など行っている。中央会のネットワークは行政、専門家、金融機関、商工団体、大学など幅広く存在する。このネットワークで中小企業団体の組合を支える仕組みができている。長崎の中小企業組合は数多く存在し、産業から小売り事業などの組合が存在する。

福祉的な組合が存在するのか伺ったところ、長崎県は坂が多い地域なので車いすの方が移動しやすいような設備を作るという組合が存在したがお金がかかるということが一番の問題となり事業がうまくいかずなくなってしまった。

福祉的な分野では、お金がかかってしまったり、利益が見込めない事業は続けていくことが難しいのかもしれないということが分かった。

福祉、地域、企業と分野の違うところで話を伺うことができ、勉強になった。

福祉の分野では佐世保事件という自分の中でとても衝撃的だった事件に関わった施設の方から話を聞くという実際に現場に足を運ぶことでしかできない経験だったと感じる。また、長崎という東京から離れたところでは長崎ならではの地域の問題が存在していて東京とは全く違うものがあって、今まで知らなかった方法で地域を活性化させようと活動しているのを知って地方の地域活性化、田舎の取り組みにも興味を持った。

今までは福祉にしか興味がなく二年生では福祉の専門ゼミに入ろうと思っていたが今回長崎に足を運び地方の努力を知ったことで、自分も地域の活性化に関わってみたいと感じた。

長崎に行けたことで自分の視野が広がりよい経験となった。二年生になったら海外の研修にも参加したい。